

第三期 中期計画


Vision 2030

食で未来をひらく、香川栄養学園

計画期間

2026年度～2030年度

2026年（令和8年）

 学校法人 香川栄養学園

1. 学びの最終目標は「実践」

【A. 大学】

1.A.1 活躍する学生像の明確化

1.A.2 教育改革・教育力強化

1.A.1 活躍する学生像の明確化

基本戦略		食を通じた教育と研究を揺るぎなく進め、社会に必要とされる人材像を明確化した上で学生を育成する			
個別戦略	■ 栄養と食の「科学的根拠と社会的実践」を基盤とし、個人と社会のウェルビーイングを実現する実践的人材を育成する	主な所管			栄養学部長 副学長
行動計画					
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI
<ul style="list-style-type: none"> ■ 各学科・専攻において核となる資質能力を担保するためのカリキュラムの見直しを行う。 ■ 各学科・専攻において学修成果を適切に把握・評価するための指標について検討を行い、設定する。 ■ 卒業研究履修学生、大学院修士課程及び博士後期課程学生、教員の研究成果として学術誌等への公表を推進する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 見直したカリキュラムについては、継続的に検証・改善を行う仕組みを構築する。 ■ 各学科・専攻において育てたい学生像に対する教育の質保証・評価とその可視化に着手する。 ■ 研究成果を公表しつつ、大学における研究成果を市民公開講座、講師派遣事業及び高校生等の探究学習において公開、普及する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 公表した学術論文数、100報以上/年間 ■ 本学教員による市民公開講座、講師派遣事業等の開講数、計200件以上/年間

1.A.2 教育改革・教育力強化

基本戦略①	特徴的なカリキュラムの構築
基本戦略②	教育の質を保証する仕組みの構築
基本戦略③	学際的に融合した新たな栄養学の導入
基本戦略④	教員組織の適正化
基本戦略⑤	新しい技術や発想を取り入れた教育
基本戦略⑥	学修支援環境の整備

基本戦略①		特徴的なカリキュラムの構築			
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「活躍する学生像」に適合したディプロマポリシーに沿った本学の特徴的なカリキュラムを構築する ■ カリキュラムのスリム化を実現し、カリキュラムの適正化を図る 	主な所管			学科長会議 坂戸教務学生部
行動計画					
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI
<ul style="list-style-type: none"> ■ 全学生が栄養学を実践するために栄養学部共通科目の見直し、栄養学士としてのコア科目のスリム化の課題を抽出する。 ■ 既存カリキュラムのスリム化と並行し、各学科での専門家養成教育におけるコア科目と本学独自の科目の見直しを行い、栄養学部及び学科としてのカリキュラムの適正化と特徴の明確化を図る。 ■ Teams等を活用したオンデマンド型のメディア授業科目の設置の実施に向け対象科目の特定を行い、試行事業を開始する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 抽出した課題を基に学科ごと、並びに基礎・教養科目についてカリキュラムマップを作成し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの関係性を明確にする。 ■ 適正化及び特徴を明確化したカリキュラムの運用を開始する。 ■ 試行結果を検証したうえで、オンデマンド型のメディア授業科目の開講を開始する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ メディア授業科目数 試行事業として10～15科目を実施 試行の検証を行い、2028年度に2030年度までの数値目標を定める

基本戦略②		教育の質を保証する仕組みの構築			
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ ルーブリック（学習到達度の評価基準）を設定する ■ ティーチング・ポートフォリオを作成し、教員各自の授業や指導の業績を振り返ることができるようにする ■ 効果的な教育を行うために実施している取組の実態を整理し、継続的に工夫する仕組みを検討する 	主な所管			内部質保証推進委員会 学科長会議 坂戸教務学生部
行動計画					
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI
<ul style="list-style-type: none"> ■ 実施可能な科目からルーブリックを試行し、実施に向け結果をまとめる。 ■ ティーチング・ポートフォリオは、教授会において学部長より提出を依頼すると共に、学部長ならびにFD運営委員長名義で依頼文を送信し、提出を促進する。未提出者については提出の障壁事項について調べ、障壁を取り除くための対応策を検討し、実施する。 ■ 学科・専攻毎にワーキングチームを立ち上げ、効果的な教育を行うために実施している取組の実態を整理し、結果を基に教育改善の優先課題、改善方針を策定する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ ルーブリックの試行で得られた知見を反映し、ルーブリック導入科目を拡大する。 ■ ティーチング・ポートフォリオを継続して提出している者のその作成の成果を可視化できる仕組みを検討する。未提出者の更なる減少を促す。 ■ 学科・専攻毎に教育改善の成果を検証し、情報を共有する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ ルーブリック実施数 試行科目として10科目を実施 試行の検証を行い、2028年度に2030年度までの数値目標を定める ■ ティーチング・ポートフォリオ提出数 前年度比+10%

個別戦略	■ビジネスやマネジメントスキルを積極的に加えたカリキュラムの可能性を検討する	主な所管	学科長会議
------	----------------------------------------	------	-------

行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■ 本学の強みである「栄養学」を学びの根幹に据え、その成果を社会に展開するための基礎として「ビジネス／マネジメント」を位置づけたカリキュラムを構築する。			■ 食や健康関連メーカーでの、各種商品企画・開発・研究・管理等、多様なフィールドで活躍できる人材を育成するために、インターンシップ制度を導入する。		■ 「ビジネス／マネジメント」に関連した科目の開講数、15科目以上

個別戦略	■「デジタルを活用して高度化したデータベースで学生の学修の向上を把握できるシステム」を利用した新たな仕組みの検討を開始する	主な所管	情報教育システム委員会 情報・ネットワーク部
------	---------------------------------------------------------------	------	---------------------------

行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■ e-ポートフォリオ内で学生へフィードバックしている情報や使用するツールを含め、より高度な仕組みの導入について検討を行い、方向性を決める。			■ 定めた方向性に沿って、新たなシステムの構築を行い稼働を開始する。		-

個別戦略	■テクノロジーの進化に合わせて、第二期中期計画で立案したDX計画の見直しを行い、より効果的な計画へブラッシュアップを図る	主な所管	DX推進委員会 情報・ネットワーク部
------	--------------------------------------------------------------	------	-----------------------

行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■ 2020年に策定したDX（Digital Transformation）推進計画の第II期推進計画について、AI（Artificial Intelligence）等の最新技術の動向を踏まえながら計画を見直し、実行に移す。			■ 見直した計画により、より効果的なテラーメイド教育を完成させる。		-

基本戦略③ 学際的に融合した新たな栄養学の導入

個別戦略	■スポーツ栄養、栄養データサイエンス、フードウェルネス等の付加価値をさらに強化するとともに、新たな「栄養学×α」を教育に導入する	主な所管	学科会議 学科長会議 坂戸教務学生部
------	------------------------------------------------------------------	------	--------------------------

行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■ 学科会議・学科長会議において科目構成および学修方法を整理し、2028年度までに改善案を取りまとめる。 ■ スポーツ栄養分野の強化として、スポーツ栄養実践センターの設置要件（目的・機能・人員体制・運営計画）を整理し、具体的な設置を計画し、実施する。			■ 改善案の妥当性を確認し、実施可能な項目を確定する。		■ スポーツ、栄養データサイエンス、フードウェルネスに関係した科目の開講数、50科目以上

基本戦略④ 教員組織の適正化

個別戦略	■各学科専攻に応じた適正な教員組織を構築する	主な所管	学長室 教員人事戦略会議
------	------------------------	------	-----------------

行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■ 栄養学部における学科再編に向けて教員組織の現状・課題を整理し、2028年度までに必要な教員配置計画と体制整備の方針を策定する。			■ 策定した方針に基づき、2029～2030年度に各学科専攻の運営に必要な十分な教員組織を適切に編成する。		-

基本戦略⑤		新しい技術や発想を取り入れた教育		
個別戦略	■「社会制度・情勢の変化」「学生・社会のニーズ」「授業評価結果」等に基づき、課題を把握する	主な所管	内部質保証推進委員会 学科長会議 坂戸教務学生部	
行動計画				
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
<p>■ 2030年までに学生ヒアリング調査等、各種の調査結果を学科長会議で検証することにより課題を明確にし、課題解決の優先順位をつけ、解決に要する期間を短期・中長期に分けながら、新技術や新たな発想で、効率的かつ実現可能な対応策を検討、実施する。</p>				
				KPI
				<p>■ 学生ヒアリング調査：年2回実施（学年・学科各2名）</p> <p>■ ポートフォリオ解析：年2回実施</p> <p>■ 学外関係者の意見・要望：年1回実施</p>

基本戦略⑥		学修支援環境の整備		
個別戦略	■ 学生の主体的な学修を支援するための電子デジタルツールの利用を促進する	主な所管	情報・ネットワーク部 図書館	
行動計画				
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
<p>■ iPadの必須化に伴い、2026年度には全学年が所持するため、より多くの端末が同時に通信可能となるようインターネット回線の速度強化を図る。</p>		<p>■ 老朽化に伴う有線LAN環境の見直しを行う。</p>		KPI
<p>■ 坂戸キャンパスの各教室でより効率的な無線LAN接続環境となるようアクセスポイントの配置を再検討する。</p>		<p>■ 現行無線LAN環境を見直し、両キャンパスでの無線LAN環境の充実を図る。</p>		<p>■ 安定した帯域幅の確保 2027年度：ファイアウォールのWAN及びLANを10Gbps化 2028～2029年度：坂戸の100Mbpsのエリアを1Gbps化 2030年度：坂戸において特に多人数が使用する1・2・4・6・12号館で有線LANの実測値500Mbpsを確保</p>
<p>■ 電子リソースを含む学術情報資源の整備計画を策定する。</p>		<p>■ 学術情報の発見・入手・利活用のサポート体制を整備する。</p>		<p>■ 年単位のアンケート結果（接続不良の件数）2026年度より定期アンケート開始 2029年度：坂戸におけるアクセスポイント起因の件数0件 2030年度：駒込におけるアクセスポイント起因の件数0件</p>

【B. 短期大学】

- 1.B.1 活躍する学生像の明確化
- 1.B.2 教育改革【魅力ある教育課程】

1.B.1 活躍する学生像の明確化

基本戦略		社会が必要とされる人材育成		
個別戦略	■ 栄養と食の「科学的根拠と社会的実践」を基礎とし、個人と社会のウェルビーイングを実現する実践的人材を育成する	主な所管	短期大学部長 駒込教務学生部	
行動計画				
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
<p>■ 積極的に社会に発信している卒業生のセミナーや学外講師の実習を通して、社会的実践の方法論を考える場を設けており、そのブラッシュアップを進める。</p> <p>■ セミナールでの産学連携事業で、栄養学の学びを社会に対し還元できる人材育成を継続する。</p>		<p>■ 卒業生の多様なキャリア事例を収集し、学生が社会発信のスキルや実践的思考を獲得できる体制を作る。</p> <p>■ 学生のフィールドワークによる実践能力育成を継続し、新規メニュー開発により社会実装力を高める。</p>		KPI
				<p>■ セミナー3回/年</p> <p>■ 学生のフィールドワークによる ・監修メニュー数40/年 ・メニューの満足度80%以上</p>

1.B.2 教育改革【魅力ある教育課程】

基本戦略①	多様な学生に向けた履修制度
基本戦略②	教育の質を保证する仕組みの構築

基本戦略① 多様な学生に向けた履修制度						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 長期履修制度の見直しを行う ■ 社会人向けの科目等履修生度の見直しを行う 				主な所管	短期大学部長 駒込教務学生部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■ これまでの長期履修制度の利用実績・課題・効果を整理する。 ■ 社会人科目等履修生の希望状況から実状を踏まえ制度の継続について検討する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 適切な運用のため、支援体制を整備する。 ■ 検討により、見直し案を策定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 制度利用率50%以上 	

基本戦略② 教育の質を保证する仕組みの構築						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業評価を活発に行い、授業内容の改善と学生の満足度向上に努める ■ カリキュラムの適正化、スリム化を行う ■ ICT (Information and Communication Technology) 技術の活用を強化した教育を行う 				主な所管	短期大学部長 駒込教務学生部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業評価を活発に行い、授業内容を改善する。 ■ 本学の強みである、栄養学×おいしさ（調理）の学びを推進する。 ■ 電子ツールを効率的に活用できるよう、2026～2030年度を通してガイダンス等での支援を強化し必要なサポートを提供する。 ■ 学生の主体的な学修を支援するための、自学自習の拠点として電子ツールの更なる充実を図る。 					-	

【C. 専門学校】

1.C.1 教育改革

1.C.2 広報改革

1.C.1 教育改革

基本戦略①	特徴的なカリキュラムの構築
基本戦略②	企業との連携

基本戦略① 特徴的なカリキュラムの構築						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ カリキュラムの変更および授業内容の改善を必要に応じて実施する ■ 社会情勢の変化に対応した実習や実技を採用する 				主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■ スリム化しても教育レベルを維持できるカリキュラムを検討し、改善案を策定する。 ■ 実習内容・産学連携要素等を整理し、ニーズを捉えた特徴あるカリキュラム案を策定する。 ■ カリキュラムの時間数を単位制に移行する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 改善策に従い、カリキュラムのスリム化、適正化を図る。 ■ 時代に沿ったカリキュラムの変更を実施する。 ■ 調理マイスター科（デュアル実習）、調理師科（松柏軒）、製菓科（プランタン）などの実習の充実を図る。 ■ 単位制運用後の学習状況・実習成果を検証し、必要に応じて科目設計や実習負荷の見直しを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 調理マイスター科 2076時間から2010時間に削減 ■ 製菓科 1100時間から1050時間に削減 	

基本戦略②		企業との連携			
個別戦略	■提携企業との連携を継続する			主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■連携企業との協力関係を継続・強化し、企業奨学金制度の拡充を図る。 ■特別講師に係る費用の適正化を検討するとともに、担当企業との連携関係については今後も継続的に維持・強化するよう努める。 ■就職を視野に入れた企業との連携強化を図る。 ■十勝地方との連携強化を図る。 					■特別講師費用（前年比1%減）

1.C.2 広報改革

基本戦略		専門学校の魅力発信			
個別戦略	■学校の知名度を向上させて、収容定員を確保する			主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■イベントの効果測定を行い、新たな企画も検討しながら、継続的に情報発信する。 ■体験入学セミナーの内容を検討し、参加者の満足度向上を図る。 ■学園ホームページを中心に各種媒体の充実を図る。 ■高校内ガイダンスに積極的に参加し、本校の魅力を発信する。 					<ul style="list-style-type: none"> ■前年度比イベント動員数（出願対象者）10%増、前年度比資料請求数（実数）10%増 ■入学定員280名確保 ■イベント参加者からの出願率50%以上

2. 「栄養学」を軸に広がる教育と研究

【A. 大学】

- 2.A.1 学生規模の最適化
- 2.A.2 学生支援
- 2.A.3 研究力強化
- 2.A.4 教員力の強化

2.A.1 学生規模の最適化

基本戦略①	入試改革
基本戦略②	大学の魅力の発信

基本戦略① 入試改革						
個別戦略	■入学定員充足に向けた入試改革を行う				主な所管	入試委員会 入試部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■年度ごとの入試選抜方法の検証、見直しを行い、課題や改善点を明確にし、有効な選抜を実施する。 ■入学者数を適切に管理し、あわせて入学者の基礎学力など質を保持する。 ■総合型選抜・学校推薦型選抜に重点を置きつつ、一般選抜の志願者増員にも取り組み、入学者選抜の適正なバランスを図る。 					■志願者増（前年度比+10%）	

基本戦略② 大学の魅力の発信						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■共学化および新名称について継続して周知活動を行う ■開催したイベントを評価し、必要に応じて変更を行う ■企業・地域との連携の成果を発信する ■学園全体の統一したブランド化を行う 				主な所管	入試部 広報部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■高校訪問や進学ガイダンスへの参加により、本学の認知度を高める。 ■大学の特色や魅力を、大学案内、学園ホームページ、ソーシャルメディア、各種媒体等を効果的に活用し発信する。 ■高校生対象イベント（オープンキャンパス、スポーツ栄養セミナー）を継続的に見直し内容の充実を図る。 ■地域プロジェクトや企業連携（商品開発等）の成果を積極的に発信する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■高校の探究学習のサポートを通じて、大学の学びや教育の内容を広めるとともに、高校とのつながりを強化する。 ■「食の総合学園」としての統一したコンセプトを確立し、媒体ごとに応じた表現を展開する。 ■共学化後の多様な学生像や進路を紹介し、多様な高校生の共感を得る。 ■成功事例を専門誌や学会等で発信する。 ■高校、大学、自治体等と連携し、食・健康・栄養教育における発信の中核を担う。 		<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパス動員数の向上（前年度比+10%） ■オープンキャンパス満足度90%以上 ■資料請求率の向上（前年度比+10%） ■SNS・Web経由での情報到達件数年間50万リーチ以上 ■ニュースリリースの配信 年間40件以上 	

2.A.2 学生支援

基本戦略①	学生支援制度の適正化
基本戦略②	就職支援制度の充実
基本戦略③	教育研究環境整備
基本戦略④	保護者との連携強化

基本戦略① 学生支援制度の適正化						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生生活に係わる諸問題の把握と支援を行う ■ 効果的なカウンセリング室を運営する 				主な所管	坂戸教務学生部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生生活の支援を強化するため、現行の各種サービスについて、満足度やコストの観点から見直しを検討すること。 ■ 共学化に伴う新たな諸問題を含め、速やかな状況把握や関係者・部署間での情報共有・協議により、具体的に分析し、組織としての効果的な支援を行う。 ■ 学内関係部署、保証人及び外部機関など状況に応じて連携し、適正な支援をする。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生ヒアリング調査の実施、学生意見箱(KOE) の運営、文部科学省全国学生調査の結果を活用し、要望や課題を把握する。 ■ 諸問題の速やかな状況把握や関係者・部署間での情報共有・協議により、組織としての効果的な支援を行う。 ■ カウンセリング室については、稼働率、利用者ニーズ、関係者へのヒアリングおよび運営コスト等を踏まえ、支援の質を確保しつつ、適正な稼働水準となるよう運営する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生ヒアリング調査：年4回実施（学年・学科各2名） ■ 全国学生調査：年1回、有効回答数の達成 	

基本戦略② 就職支援制度の充実						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 早期選考に対応したキャリア形成支援を強化する ■ 実践的なキャリア形成の支援を行う ■ 多様な学生のキャリア形成を支える、包摂的かつ実践的な支援体制を構築する 				主な所管	坂戸教務学生部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 学年別キャリア支援プログラムを設計する（例：1・2年生向け就活準備講座など）。 ■ 早期選考を実施する企業の情報を分析、データベース化し、学生に提供。企業訪問などの結果を担当内で共有し、根拠に基づいた学生支援に繋げる。 ■ これまで企業に依頼していた事業課題に基づく授業テーマ設定を実践的であり教育効果の高い内容にブラッシュアップしていく。 ■ 共学化を見据えて、実社会ロールモデルを紹介し、キャリア形成の多様な選択肢を紹介する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 1年生から4年生の一貫した支援体制の基礎を完成させる。 ■ データ活用による選考傾向の分析と個別支援を行う。 ■ 実践的で教育効果の高い授業テーマの選定し、学生の職業観と社会参画意識の育成に努める。 ■ 卒業後1年・3年・5年のタイミングでキャリア満足度・定着率を調査し、教育・支援の質向上に活用していく。 		就職率100%、満足度90%以上	

基本戦略③ 教育研究環境整備						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生の多様性に対応し、学修に専念できる施設（課外活動含む）を検討する ■ 学食等の現状把握と改善を検討・提案する 				主な所管	学科長会議 坂戸教務学生部 管財部 学生生活委員会
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 課外活動に係る施設について、活動実績や今後の展望を踏まえ検討し要望していく。 ■ 学生等の要望を踏まえ、学食やフリースペース等の学生生活に関わる施設の現状を把握し、改善案を検討・提案する。 ■ 授業数、学生数を勘案した教室及び実習室等の検討を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討を踏まえ、教室の設備については、学科専攻毎に要望を取りまとめ、学科長会議で検討した上で所管部署に要望を提出する。 ■ 学生の要望なども踏まえ学修環境及び学生生活に適切な改善策を検討し、施設整備をする。 ■ 授業数、学生数等を踏まえ状況を継続的に把握し、改善案を検討・提案する。 			

基本戦略④ 保護者との連携強化				
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■保護者会との情報共有を密にするための施策を検討する 	主な所管	坂戸教務学生部	
行動計画				KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■地方会場での対面実施をオンラインでの実施にシフトする。 ■学科専攻（クラス・コース別）の集合プログラムを実施している「保護者の集い」においては、担当教員の意見なども反映し、情報共有を図る。 ■事前アンケートの活用などで、より要望に沿ったプログラムを実施する。 ■「保護者の集い」と公開講座等を同日に実施し、大学の取り組みについての理解を深めて貰う機会とする。 			<ul style="list-style-type: none"> ■2028年度までの実績や要望を元に保護者会活動を再検討し、以降の行動に反映する。 	

2.A.3 研究力強化

基本戦略①	研究時間の確保
基本戦略②	研究設備の確保
基本戦略③	研究成果の発信
基本戦略④	外部競争的研究資金の獲得
基本戦略⑤	国際交流の促進

基本戦略① 研究時間の確保				
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■業務負担の平準化や研究補助者等の雇用により研究時間の確保に寄与する 	主な所管	大学院研究科長 坂戸教務学生部 学部長 学長室	
行動計画				KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■授業担当時間や各種業務負担の平準化を図り、研究意欲の維持に寄与する。 ■大学院生RA（Research Assistant）の制度整備について検討し、研究補助者等の支援や雇用体制を確立する。 				

基本戦略② 研究設備の確保				
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■研究設備の共同利用を促進する 	主な所管	大学院研究科長 坂戸教務学生部 学部長 学長室	
行動計画				KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■大型設備の更新・新規購入・管理がしやすいシステムをつくとともに、他大学・施設との研究機器の共同利用を促進する。 				

基本戦略③ 研究成果の発信				
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■大学として重点を置く「基幹的研究」を設定し、機関リポジトリへの登録を推進する 	主な所管	大学院研究科長 坂戸教務学生部 学部長 学長室 栄養科学研究所 図書館	
行動計画				KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■2026年度中に、大学として重点を置く「基幹的研究」を設定する。 ■オープンアクセスポリシーの周知を図り、機関リポジトリの登録環境を整備する。 ■紀要と研究所年報を統合した「日本栄養大学研究紀要」を刊行する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■「基幹的研究」を重点的に支援し、これを推進する。 ■機関リポジトリでの公開を促進し、オープンサイエンスに寄与する。 ■「日本栄養大学研究紀要」の刊行を継続し、誌面の充実を図る。 	

基本戦略④ 外部競争的研究資金の獲得						
個別戦略	■科学研究費等の外部競争的研究資金の申請及び受託研究・共同研究を推進する				主な所管	坂戸教務学生部 学長室 栄養科学研究所 研究推進会議
行動計画						
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI	
■URA（University Research Administrator）の配置を検討するなど、科学研究費獲得及び獲得後の研究マネジメントのサポート体制を整備し、積極的な申請を促す。					-	

基本戦略⑤ 国際交流の促進						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■学園ホームページ等で大学院の成果を発信する ■本学学生および教員の海外研修や国際学会等への参加、留学生の受け入れを推進する ■本学としてのアジアへの貢献に関する方針を明確化する ■アジア諸国との連携方針を定め、共同研究を推進する 				主な所管	大学院研究科長 坂戸教務学生部 国際交流センター 栄養科学研究所 研究推進会議
行動計画						
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI	
<ul style="list-style-type: none"> ■大学院生や学生および教員の国際学会での発表やセミナー参加を促進するため、栄養科学研究所や研究推進会議で予算措置等を検討し、支援制度の枠組みを策定する。 ■大学院での全ての授業で、英語の説明を含めるとともに、本学の英文公式サイト上でその点を明記する。 ■専門知識を生かして活躍する留学生を育成するため、大学院および国際交流センターが連携し、大学院生や研究生として受け入れる留学生の人数を維持・増加させる。 ■国際交流センターを中心に、提携校との共同研究を戦略的に促進するしくみを確立する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■大学院生や学生および教職員の国際学会での発表やセミナー参加を促進するとともに、学生の海外研修および留学生受け入れ体制の充実を図り、国際的な教育研究活動への参画を継続的に強化する。 ■英語併記教材の質を維持するため、定期的なレビュー・更新サイクルを確立する。 ■修了後の海外での活躍状況を把握・収集し、本学英文公式サイトに成功事例として継続的に掲載することにより、本学の国際的な教育実績を可視化する。 ■確立した仕組みにより、提携校との共同研究を促進する。 		-	

2.A.4 教員力の強化

基本戦略①	教員の質向上
基本戦略②	教員人事制度の改善

基本戦略① 教員の質向上						
個別戦略	■FD運営委員会のもと、教員個人の能力向上だけでなく、大学全体として質の高い教育を提供するためのFD（Faculty Development）活動を実施する				主な所管	総務部 学長室 FD運営委員会
行動計画						
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI	
■教育・研究・業務の質を高めるため、継続的なスキルアップと専門性と教育力の向上を支援する。					■FD研修参加率100%	

基本戦略② 教員人事制度の改善						
個別戦略	■教員人事戦略会議の下、適正な計画に基づく採用・評価・配置を行う				主な所管	総務部 学長室 教員人事戦略会議
行動計画						
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI	
<ul style="list-style-type: none"> ■ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（合理的配慮と支援）を推進し、組織の活力と創造性を高める。 ■教職員のウェルビーイング向上を目指し、業務の効率化や働き方の見直しを通じて、ワークライフバランスの充実を図る。 ■組織体制の見直しにより、部門間連携の強化を図るとともに円滑な組織運営を推進する。 ■キャリアパスの明確化や評価制度の整備を進め、公平・透明性の高い人事制度を構築する。 					-	

【B. 短期大学】

- 2.B.1 学生支援
- 2.B.2 教員人事改革

2.B.1 学生支援

基本戦略①	学生支援制度の適正化
基本戦略②	就職支援制度の充実

基本戦略① 学生支援制度の適正化

個別戦略	■学生の早期退学・休学防止等の強化を進める	主な所管	短期大学部長 駒込教務学生部		
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■入学直後より、クラス担任、および教務学生課との個別面談を実施し、学生生活全般の把握を行う。 ■学生全員のA評価取得を目指した対策授業を実施する。			■面談情報を活用し、学期ごとのフォロー面談を計画的に実施する。 ■改善策実施後のA評価取得率により、計画の見直し・改善を実施する。		■2026～2028：面談回数2回（人/年） 2026～2028：成績不良者の面談回数2回以上（人/年） ■年間退学率5%以下 ■対策講座および模擬試験を合わせて15回 ■A評価70%以上

基本戦略② 就職支援制度の充実

個別戦略	■栄養士実力認定試験対策授業を強化する ■卒業生と連携強化し、卒業生の行動を把握する ■就職支援制度の充実を図る	主な所管	短期大学部長 駒込教務学生部		
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■学生全員のA評価取得を目指した対策授業の運営を検討し、改善のための計画を策定する。 ■卒業後、1年、3年、6年を経過する卒業生向けの卒業後の現状調査の継続と教育活動の見直し・改善を行う。 ■就職支援講座や求人情報の捻出、採用試験準備に向けた学生フォロー体制の更なる充実を進める。			■卒業後現状調査を基に就職支援・キャリア教育プログラムの改善を行う。 ■個別指導を強化し、学生の弱点に応じたサポートを継続的に推進する。		■実力認定試験の対策として対策講義および模擬試験を合わせて15回実施 ■9月卒業生現状調査実施回収率目標20% ■進路支援講座年間15回実施 進路先の満足度90%

2.B.2 教員人事改革

基本戦略 教職員の能力向上

個別戦略	■教職員の育成強化を図る ■教職員の能力開発に向け、研修会情報の発信、積極的な参加可能な環境を設定する	主な所管	短期大学部長 駒込教務学生部		
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■FD（Faculty Development）研修、SD（Staff Development）研修・外部主催による研修に必要に応じ参加し、その成果を学生支援に還元する。 ■学内外の勉強会・セミナー等の参加奨励、教員同士の共同研究、産学連携事業の共同受諾等により若手・中堅教員の育成を推進する。					0

【C. 専門学校】

- 2.C.1 学生支援
- 2.C.2 教員人事改革

2.C.1 学生支援

基本戦略①	学生支援制度の適正化
基本戦略②	生活指導、保護者との連携強化
基本戦略③	就職支援制度の充実
基本戦略④	施設設備の改善

基本戦略① 学生支援制度の適正化

個別戦略	■学習支援を強化する	主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部		
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■学生・社会のニーズに応える支援を行う。 ■学生生活の支援を強化するため、各種サービスについて、見直しを検討する。現行サービスの満足度利用の状況、コスト等を基に支援案を作成する。			■中途退学者の要因、傾向を把握し効果的な支援を行う。 ■VR (Virtual Reality) を活用した教育（実習）を実施する。 ■精神的な健康が保たれていない学生の情報を共有し保健センターと連携しサポートを行う。 ■決定した改善方針に基づき、学生支援サービスの再設計・実施を行う。		■卒業率100% ■退学者10名以内 ■満足度90%以上

基本戦略② 生活指導、保護者との連携強化

個別戦略	■生活指導、保護者との連携を図る	主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部		
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■保護者との連携を強化し学生の情報共有、適正な支援を行う。			■保護者会を継続実施し、学校方針や学生の状況について理解を深める機会を設けることで、家庭と学校の連携を強化する。 ■保護者との信頼関係を強め、学校教育への理解と満足度を高める。 ■基本的な生活習慣や衛生管理の指導を継続し、学生の資質向上と進路実績の向上につなげる。		■年1回保護者会の実施 ■保護者満足度90%以上

基本戦略③ 就職支援制度の充実

個別戦略	■就職支援制度を充実する ■就職先企業との連携を強化する（企業奨学金の拡大・特別授業担当の拡大）	主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部		
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■入学後、クラス担任との個別面談を実施し、就職先や学校生活について確認する。			■就職内定率100%を目標に企業説明会の開催や面接指導などのサポートを実施する。 ■企業との連携を強化し、学園ホームページを中心とした媒体を利用し就職先（卒業生）情報の発信を行う。		■就職内定率100% ■満足度90%以上

基本戦略④ 施設設備の改善

個別戦略	■施設設備を改善する	主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部		
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■学生生活が充実できる施設設備環境の整備の洗い出しを行い、改善案を策定する。			■改善案により、現状と学生の要望を踏まえ優先順位に従って整備をする。		

2.C.2 教員人事改革

基本戦略①	教員の育成強化
基本戦略②	教員組織や運営体制の合理化

基本戦略① 教員の育成強化					
個別戦略	<table border="1"> <tr> <td>■教員の育成強化を図る</td> <td>主な所管</td> <td>専門学校部長 専門学校教務学生部</td> </tr> </table>	■教員の育成強化を図る	主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部	
■教員の育成強化を図る	主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部			
行動計画					
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI
<ul style="list-style-type: none"> ■計画の方針に従い、専門学校の将来像について共通理解を図る。 ■各自が専門分野における講習会、コンテスト、研修に参加し必要なスキルや専門性を学ぶ。 ■クラス担任、副担任制の指導力を強化する。 					<ul style="list-style-type: none"> ■講習会、コンテスト、研修会に年1回以上の参加

基本戦略② 教員組織や運営体制の合理化					
個別戦略	<table border="1"> <tr> <td>■教員組織や運営体制を整備する</td> <td>主な所管</td> <td>専門学校部長 専門学校教務学生部</td> </tr> </table>	■教員組織や運営体制を整備する	主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部	
■教員組織や運営体制を整備する	主な所管	専門学校部長 専門学校教務学生部			
行動計画					
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI
<ul style="list-style-type: none"> ■設置基準を踏まえて、5年後を見据えた教員配置を行う。 ■次世代に繋がる人材を育成する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■座学教員 1名（食品衛生学実験実習）及び実習教員 1名の配置を検討し所轄部署に要望を提出する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■実習担当教員7名→8名 ■座学 1名→2名

3. 「連携」と「発信」による社会貢献

3.1 社会連携

3.1 社会連携

基本戦略①	教育研究成果の社会への還元
基本戦略②	「食の総合学園」として企業や地域との連携を強化
基本戦略③	「香川綾記念講師派遣事業」等の特徴ある取り組みの強化

基本戦略① 教育研究成果の社会への還元					
個別戦略	■ 社会実装のための基盤づくりと連携を拡大し、持続可能な仕組みを構築する			主な所管	広報部
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究成果や取組を社会に発信するため、プレスリリースを積極的に作成する。 ■ 研究成果について各種媒体を通じて分かりやすく発信する。 ■ 自治体や企業のニーズに合わせた連携事業を各地で展開する。 ■ 高大連携を推進し、高等学校の探究学習を支援する。 					

基本戦略② 「食の総合学園」として企業や地域との連携を強化					
個別戦略	■ 企業や地域との連携を積極的に展開し、その研究結果を広く社会に発信していく			主な所管	広報部
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 各連携機関との包括協定の締結（自治体、企業、高等学校）により、産学官連携の推進体制を構築する。 ■ 国や自治体との連携事業を各地で展開する。 ■ 健康志向食品・メニューの共同開発、栄養教育に関する調査研究により、企業・団体との共同研究・商品開発を行なう。 ■ 健康フェアや食育教室を地域の公民館・学校で開催し、自治体と連携した地域食育・健康プロジェクトを実施する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 健康支援モデルの制度化・拡張にあたっては、成功事例を横展開し、全国50自治体・50企業への導入を目指す。 ■ 文部科学省・厚生労働省などの補助事業（食育、地域包括ケア）と連動することで、国や自治体との連携を図る。 ■ アジア圏の大学・機関との連携により、グローバルな視野を持つ連携へ展開する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究成果を活用したプログラムの導入50自治体、50企業 ■ 産学官連携プロジェクト25件 ■ 連携先新規開拓年間5件以上 ■ 社会実装共同プロジェクト年間20件以上 ■ 成果の社会発信20件以上

基本戦略③ 「香川綾記念講師派遣事業」等の特徴ある取り組みの強化					
個別戦略	■ 創立者香川綾の精神や「食・栄養・健康」の知識が、卒業生の社会活動を通じて円滑に展開されるようバックアップするとともに社会ニーズに応える取り組みを行う			主な所管	広報部 生涯学習センター
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 「香川綾記念講師派遣事業」について、現行制度の課題や利用状況、社会的ニーズを踏まえ、制度の見直しに向けた検討を行う。 ■ 栄養学関連講座等への参画する派遣講師の登録者を増やすとともに、高校生および地域のニーズに合致した多様なテーマを開発する。 ■ オンライン講座やライブ配信、アーカイブ動画のライブラリを整備し、誰でも学べる環境を提供する。 ■ 教育委員会、自治体・高校との包括連携協定の締結を推進し、地域ボランティア団体やNPOとの協働事業も実施する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 見直した制度に基づき、「香川綾記念講師派遣事業」をより効果的かつ持続可能な仕組みとして再構築し、地域・社会との連携強化および教育研究成果の社会還元を推進する。 ■ 同窓会と連携し講師派遣の地域窓口を整備し、加えて、講師研修会や活動支援を定期的実施する。 ■ 特定保健指導、高齢者栄養、スポーツ栄養など、ニーズ別の専門講座を拡充し、講座内容の高度化と専門化を図る。 ■ 生涯学習、検定事業と連携した学園附帯事業の収益化への貢献を高める。 ■ 成果事例をまとめ、他大学・行政・教育現場への普及ガイドとして活用するとともに、シンポジウムや冊子等を通じ日本栄養大学のリーダーシップを発信する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 年間20本の栄養教育・支援事業を社会実装 ■ 年間400回以上の講師派遣事業（市民向け講座や講師派遣を含む） ■ 高校・地域向け栄養講座を延べ10万人に提供、後援会年間400件以上 ■ オンライン配信コンテンツ年間5本以上 ■ 講師派遣年間50名以上

4. 持続可能な学園経営

- 4.1 人材育成と組織体制の整備
- 4.2 ガバナンスやリスク管理体制の整備
- 4.3 校舎・施設整備
- 4.4 財務戦略

4.1 人材育成と組織体制の整備

基本戦略①	職員人材育成の強化
基本戦略②	人事評価制度の導入
基本戦略③	新給与体系の構築

基本戦略① 職員人材育成の強化						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■現状と経営状況を踏まえ、組織が目指す職員像を定義する ■部署ごとに必要なスキルと専門性を明確にする ■目標やビジョンを共有し、エンゲージメント向上と連動させたSD計画の見直しを行う ■正規教職員の中期採用計画（3～5年）を策定し、内部育成の連動を図る 			主な所管	総務部	
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■職員のキャリアステージに応じた育成目標と支援策を明確化し、人材育成ロードマップを策定する。 ■年齢構成、在部署年数、専門性、スキルを配慮した職員配置計画を策定する。 ■SD（Staff Development）計画を抜本的に見直し、体系的な研修制度を再構築する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■人件費率を適正に維持しつつ、キャリア形成を考慮した配置計画に基づき採用を行う。 ■採用計画と人材育成ロードマップを連動させ、次世代人材の確保と育成を両立する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■SD研修参加率100%達成 	
基本戦略② 人事評価制度の導入						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■公平で透明性のある人事評価システムを確立する 			主な所管	総務部	
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■職員の待遇面での公平性を確保し、モチベーション向上を図るため、人事評価制度を導入する。 ■目標管理に基づく評価システムを導入し、評価結果のフィードバックと昇格・報酬制度との連動を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> ■導入した人事評価制度について、評価基準の運用状況を検証し、継続的なフィードバックを通じて改善を図ることで、職員がやり甲斐を感じながら能力を最大限発揮できる制度として定着させる。 ■評価結果のフィードバックや昇格・報酬制度との連動状況を継続的に検証・改善し、職員の意欲向上と組織力の強化につなげる。 		-	
基本戦略③ 新給与体系の構築						
個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■持続可能で納得性の高い給与体系への見直しを行う 			主な所管	総務部	
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■現行の給与表について、職務内容や役割分担、他制度との関係性を整理し、課題の把握と見直しの方向性を検討する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■見直した給与体系について段階的に導入するとともに、人事評価制度との連動を図り、職員の能力発揮と意欲向上につながる処遇制度として定着を図る。 		-	

4.2 ガバナンスやリスク管理体制の整備

基本戦略①	ガバナンス強化
基本戦略②	ガバナンスコードの遵守
基本戦略③	内部質保証
基本戦略④	リスク管理体制の構築
基本戦略⑤	監査体制の整備

基本戦略① ガバナンス強化					
個別戦略	■透明性と説明責任を重視したガバナンスを徹底し、教職員が協働する運営体制を強化する			主な所管	総務部 内部監査室
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■寄附行為施行細則の理事会運営の遵守状況をチェック・監査する体制を構築する。 ■理事・評議員向けの研修会を実施する。 ■理事会・評議員会の決定事項を教職員に共有する為の仕組みを強化する。			■2026～2028までの行動計画の振り返りを行い、改善施策を策定する。		-
基本戦略② ガバナンスコードの遵守					
個別戦略	■4つの基本原則とそれに紐づく原則、実施項目に基づき、遵守状況を点検し公表する			主な所管	内部監査室 総務部
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■内部監査室がガバナンス・コードの遵守（実施）状況を点検し、その結果を学園ホームページに公表する。					-
基本戦略③ 内部質保証					
個別戦略	■内部質保証体制の維持を図る			主な所管	学長室 内部質保証推進委員会 IR推進部会
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■内部質保証推進委員会及びIR（Institutional Research）推進部会の下、自己点検・評価に基づく不断の改善を図る。					-
基本戦略④ リスク管理体制の構築					
個別戦略	■内部統制システム整備基本方針に基づく組織をつくり、担当部署や責任者を明確にする ■BCPを整備する ■情報セキュリティ体制を整備する			主な所管	総務部 管財部 情報管理委員会
行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
■規程・マニュアルの整備（様々なリスク（自然災害、学内外の実習、SNSや勧誘活動など）に対応する危機管理）を行う。 ■リスク管理体制として、定期的な点検・訓練、規程に基づくモニタリング体制を整備する。 ■実際の業務に則したBCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）を策定し、情報共有を徹底する。 ■CSIRT（Computer Security Incident Response Team）構築の検討を行い、情報管理委員会の機能の実質化を図る。			■2026～2028までの行動計画の振り返りを行い、改善施策を策定する。		-

基本戦略⑤ 監査体制の整備						
個別戦略	■現状の学園に起こりうるリスクや問題を把握し、監査にかかる規程や部門の設置、人員配置を検討する				主な所管	内部監査室
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■部署別に把握されているリスク要因、並びに規程と実態の整合性についてアンケートやヒアリングを実施して情報収集を進める。 ■収集された情報を基に作成されたリストより監査計画を立案し内部監査を実施する仕組みを構築する。 ■2～3年を目処にリスクを再評価した上でリストを更新する。 ■監事や会計監査人から指摘事項があれば優先して監査対象とする。 			<ul style="list-style-type: none"> ■2026～2028までの行動計画の振り返りを行い、改善施策を策定する。 			

4.3 校舎・施設整備

基本戦略 良好な施設維持管理及び整備						
個別戦略	■経費の最小化と施設効果の最大化を図り、安心安全な学修・研究環境を整える				主な所管	管財部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■駒込校舎再整備について、長期的視野に立ち持続可能な整備計画を策定し、第1期整備（新校舎建設）を行う。 ■坂戸校舎は施設の定期的な点検等により危険箇所や不具合箇所を把握し、解消することで安全で快適な施設機能を維持する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■駒込校舎第2期整備として新校舎等へ4号館機能を移転し運用開始する。同時に4号館の建替えに着手する。 ■坂戸校舎は老朽箇所・機器の更新を行い、全学年共学に対する必要施設の整備を行う。 			

4.4 財務戦略

基本戦略①	安定した財務基盤の確保
基本戦略②	出版事業全体収益の向上
基本戦略③	販売促進の強化
基本戦略④	検定試験事業及び生涯学習事業の再編成による収益の向上
基本戦略⑤	附帯事業部の収支改善
基本戦略⑥	組織と業務の効率化による経費削減
基本戦略⑦	戦略的な予算配分による中期目標の達成

基本戦略① 安定した財務基盤の確保						
個別戦略	■寄付金活動を強化する				主な所管	総務部
行動計画					KPI	
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度		
<ul style="list-style-type: none"> ■【個人】寄付意欲の向上を図るため、返礼品の内容充実に向けた検討を行い、新たな返礼品の選定および導入を実施する。 ■【法人】法人向け奨学金制度の公募要項を整備し、公募を開始する。 ■創立100周年記念募金の具体的な企画を策定し、実施に向けた準備を着実に進める。 ■寄付者への謝意を明確に示すため、募金顕彰制度創設に向けた関連規程を整備し、運用を開始する。 						

個別戦略	■財源の多様化を図り、資産運用の積極化など安定した財務基盤を確保するための戦略を策定・実行する				主な所管	管財部
行動計画						
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI	
<p>■財源の多様化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業料収入や補助金等に依存しない財源構造を構築するため、受託事業収入、産学連携収入など、多様な収入源の拡充を図る。 ・施設・設備の新設および更新に係る各種補助金について、既存制度を含めた情報収集を行い、継続的かつ積極的な獲得を目指す。 ・産学連携の推進を通じ、企業等からの受託事業収入の拡大を図るため、申請要件や募集要項等の情報を随時把握し、外部資金獲得に向けた取組を強化する。 <p>さらに、文部科学省科学研究費補助金をはじめとする競争的外部資金について、採択率の向上を図る。そのため、URA（University Research Administrator）の配置を含め、研究者の申請を支援する体制の整備を検討・推進する。</p> <p>■資産運用の積極化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元本毀損リスクの低い安全資産による運用を大前提とし、学内規程範囲内でのさらなる積極的運用により増収を図る。 ・文部科学省及び経済産業省等が推奨する資産運用情報に基づき、運用対象の拡大等の可否を検討する。 					<p>■学生生徒等納付金比率</p> <p>【2026～2028年度目標値】 80%未満</p> <p>【2029～2030年度目標値】 75%未満</p>	

基本戦略② 出版事業全体収益の向上

個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■書籍売上の増加と営業力強化を図る ■各種イベントを通じた新規客層の獲得を目指す ■「栄養と料理」ブランドを継続し、発展させる 				主な所管	出版部
行動計画						
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI	
<p>■既存本を含めた書籍売上の増加と営業力の強化（特に「全員営業」を掲げ、全国の管理栄養士養成校にアプローチする）</p> <p>■「栄養と料理ぶらす」などWebメディアに本格参入し、収益モデルを構築する。</p> <p>■イベントの開催、Webメディアを活用したオンライン配信などを通してファンマーケティングを実施し、新規事業の計画につなげる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ■全国の栄養士、管理栄養士養成校との関係性を育て、食品成分表、食事摂取基準、データ本、国家試験対策本、栄養計算ソフト等のシェアを底上げする。 ■栄養と料理Webを普及させ、有料会員を増やすとともに広告代収入増につなげる。 ■ファンマーケティングを基に新規事業を実施し、新たな収益モデルを構築する。 		<p>■売上目標</p> <p>【2026→2028年度】 3億5000万→3億8700万</p> <p>【2029→2030年度】 3億9700万→4億50万</p>	

基本戦略③ 販売促進の強化

個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■人的資源の削減を図る ■販売品の取捨選択と強化を行う ■栄大ブランドを利用したフランチャイズ（FC）事業を推進する 				主な所管	事業部
行動計画						
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI	
<ul style="list-style-type: none"> ■紙伝票類のデータ配信を計画し、実施する。 ■新校名のオリジナルグッズを作成し、販売する。 ■学園ホームページ上の通販ページのリニューアルと代理部による更新、または大手ネット通販（EC）サイトへ出店する。 						

基本戦略④ 検定試験事業及び生涯学習事業の再編成による収益の向上

個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■栄養と調理技能検定・食生活と栄養検定受験者増の施策を検討する ■自治体検定の受験者の獲得に注力する ■管理栄養士国試対策関連（eラーニング・模擬試験など）受講者の獲得を図る ■公開講座の立ち上げ（社会貢献、収益を意識）に尽力する 				主な所管	事業部
行動計画						
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	KPI	
<ul style="list-style-type: none"> ■栄養と調理技能検定・食生活と栄養検定を様々なチャネルを通して普及促進する。 ■管理栄養士国家試験対策講座（eラーニング・通学）の企業団体の受講を推進し、受講生を確保する。 ■新規公開講座の開発を行い、収益向上を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> ■市場動向により、検定事業、生涯学習事業は、事業の再構築も視野に入れて運営する。 			

基本戦略⑤ 附帯事業部の収支改善

個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 松柏軒・プランタンの収支の安定の維持を図る ■ 坂戸カフェテリア、駒込カフェテリアの利用者増を目指す ■ 栄大食堂を継続実施する 	主な所管	事業部
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	-----

行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 松柏軒：季節ごとのコースメニューを作成し学園ホームページで公開するとともに、食材発注の効率化を図り、業務の安定化を進める。 ■ プランタン：オリジナル商品によりヒット商品を生み出し、ブランディングを行う。 ■ カフェテリア：2026年4月より教職員用料金を新設し値上げを実施。また企業様から協力を得て、新しいメニューを提供する。 ■ 栄大食堂：各回100名分相当の米・食材費に相当する助成金・寄付金の確保を図るとともに、食事提供だけでなく食を通しての学びを提供する。 ■ サプライの業務の改良・効率化・発注方法の改善・データベース化を進める。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 2026～2028までの行動計画の振り返りを行い、改善施策を策定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 総売上目標 松柏軒：5千万円 プランタン：5千万円

基本戦略⑥ 組織と業務の効率化による経費削減

個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物価高騰等による負担増を踏まえ、さらなる組織や業務の効率化を図り、人件費と無駄な経費を削減する 	主な所管	管財部 総務部
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	------	------------

行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織と業務の効率化により人件費削減および経費削減を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 2026～2028までの行動計画の振り返りを行い、改善施策を策定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 人件費比率 【2026～2028年度目標値】53%未満 【2029～2030年度目標値】50%未満

基本戦略⑦ 戦略的な予算配分による中期目標の達成

個別戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設管理コストの削減を図るために施設の集約化、統廃合の可能性を検討する 	主な所管	管財部
------	-----------------------------------------------------------------------------------------	------	-----

行動計画					KPI
2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設・設備の最適化について計画するとともに、光熱水費の削減を図る。 ■ 施設管理コストの削減を図る。 ■ 事業計画・中期計画に基づいた予算配分により、限られた財源で目標達成ができるよう効果的に重点配分する。 			<ul style="list-style-type: none"> ■ 2026～2028までの行動計画の振り返りを行い、改善施策を策定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業活動収支差額比率 【2026～2028年度目標値】0%以上 【2029～2030年度目標値】5%以上